

## 協議員から出された意見

## 第18回協議会

## 「必要性の有無（効果と影響）」について

- ・オープンハウスについては、区市の行政が、中心になりながらやっていく段階になっているのではないかと。
- ・区や市における地区計画あるいは街づくり計画との整合性を確保するためには、区市の行政がそれぞれの役割を果たす必要がある。
- ・協議員が、行政の範囲に入り込んでやっていくことが可能なのか、疑問がある。（武田協議員）
- ・協議会で情報とデータをしっかり出して、そして地元のオープンハウスで議論し、それらを行政として集約した上で、都市計画審議会の議論に移っていく形になるのでは。（柴田協議員）
- ・区は区の立場で、P Iの議論はまた別の場で議論をする必要もあり、その辺の協議員の立場をもう少し明確にした方がよいのでは。（平野協議員）
- ・それぞれ地元の区や市の自治体としての考えがあるから、個別にどういう対応をするかどうかというのは各地元の考えでいい。（倉田協議員）
- ・東名から中央道以外のネットワーク街路に必要な部分はどこからどこまでか。
- ・ネットワーク街路として必要な部分の立ち退き対象戸数は何戸か。（渡辺協議員）
- ・歴史を破壊せず、保存していくことも検討していただきたい。【提出資料補足説明】（江崎協議員）
- ・将来的に湾岸まで結んだらどうなるか、シミュレーションをすべき。
- ・交通量や換気処理について一番影響を及ぼすのはジャンクションとインターチェンジ周辺なので、きちんと説明すべき。（柴田協議員）
- ・ジャンクション周辺は、ジャンクションができるだけでも大変なのに換気塔ができれば大変なことになる。（渡辺協議員）
- ・ネットワークの必要な区間は、次回提出するが、現時点での都市計画決定の中では、東八道路から目白通り間の約9 kmがネットワーク街路として決定されている。
- ・立ち退き戸数は、3,000戸にはならないと思う。次回資料提出する。（成田協議員）
- ・地上部の街路については、もう少し意見が集約された段階で議論していくと運営懇談会において決まっているため、今議論すべきことではない。（江崎協議員）
- ・大深度でやったとしても上は使うというふうに聞こえる。地上の建物は入っていないことを明確にすべき。（濱本協議員）
- ・地元の人達も含め、外環に付随する道路はすべて、外環が大深度地下に入ったときは消えていくと思っている。（新協議員）
- ・「外環本線トンネルの地上部の街路については、今議論している外環道の必要性の有無とは切り離し、必要性の議論がある程度集約された段階で議論していくことで協議員全員の共通認識とする。」ことについて、賛同願いたい。（渡辺協議員）
- ・地上部の街路の問題も環境問題に影響すると思う。切り離せるもの、切り離せないものがあると思うので、協議会全員の共通認識とする提案はいかなものか。（秋山協議員）
- ・関越道から青梅街道までの街路については、練馬区長や練馬区促進議員連盟からの意見と聞いたが、区議会の公式な意思表示はなかったこと及び促進議員連盟の文書中にもないことを確認した。次回、文書にて答弁いただきたい。（武田協議員）
- ・「確認事項」を配布して、ファイリングするというやり方自体がおかしい。（新谷協議員）
- ・地上部の整備の方向は、今後必要になった時点で考えるべきであり、現時点では、あくまでも全部下に入っているという認識でいるべきではないか。（井上協議員）
- ・大深度でやると提案が出されたということは、地上の計画線はなくなるというのが一般的な考え方。（濱本協議員）
- ・前回の運営懇談会で、本線をまず先に、上の街路はその後に議論するよう整理されたので、そう進めていただきたい。（成田協議員）
- ・大深度でやると決めたのだから、そこから話をスタートしていくのは当然である。
- ・街路の問題が出てくるのであれば、必要性の議論よりも先に話をしていくべき。（新協議員）

意見